



高度化する情報社会に必要な考察力が身に付く

理工学部 機能分子・生命化学科 西田匡希さん

最近、「データサイエンス」という言葉をよく聞くようになったという印象は持っていましたが、特別に意識はしていませんでした。その考えが変わったのが、就職活動中のこと。業種を問わず、様々な企業の話の中でデータを適切に扱える人材について言及されており、これからの社会におけるニーズの高まりを実感しました。本格的に学びたいと考え始めた時に目に留まったのがDDASHという新しいプログラム。データとの向き合い方に関して、基礎的な部分から学べる講座内容に心を惹かれたのです。情報解析の手法に始まり、それにより得たデータの視覚化まで、実践的スキルを学んだのはもちろんですが、最大の成果は「深く考える意識」が鍛えられたこと。DDASHを通して育まれた

このスキルは、専門分野の授業や実験で生きています。最も大きな変化は、実験結果だけでなく、過程にも意識が向くようになったことです。結果に至るまでのプロセスはどのようなものであるか、実験データから導き出した論理に飛躍はないかなど、さらに深く具体的に考察できるようになりました。この意識が活きるのはアカデミックな場だけではありません。普段の生活においても、大いに役立っています。SNSを始めとする情報テクノロジーやデータが身の回りにあふれ、多くの情報が容易に手に入るからこそ、それをただ鵜呑みにするのではなく、自分で考えて判断する必要があります。DDASHで身に付けたスキルと思考力は日々高度化する情報社会を生き抜くうえで心強い味方です。



同志社データサイエンス・AI教育プログラム

DDASH

OPEN BADGE

学習歴のデジタル証明「オープンバッジ」

DDASH-L、DDASH-A、DDASH副専攻の各プログラムの必要単位を満たせば、卒業可否に関わらず学習歴のデジタル証明である「オープンバッジ」を希望者に発行します。オープンバッジとは、IMS Global Learning Consortium (IMS Global) が設定した国際技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明です。授与されたデジタル証明は、自身の「オープンバッジウォレット」で一元的に管理することができ、保有する資格や学習の成果を、メール署名や履歴書に貼り付けたり、SNS等で共有・公開ができます。また、ブロックチェーン技術を取り入れることで、偽造・改ざんが困難で信頼性の高い証明書として、海外はもちろん、国内でも導入する団体や企業が増えてきています。



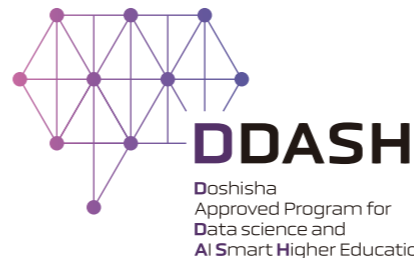
DDASH e-BOOK

電子書籍サービスを利用したことはありますか？

本学が提供している電子書籍サービス、「KinoDen」「Maruzen eBook Library」「ProQuest Ebook Central」では、様々な分野の書籍を、いつでもどこでも読むことができます。「データサイエンス」や「データエンジニアリング」、「AI」など興味があるキーワードで、読みたい本を探すのも簡単！ 大学が未購入の電子書籍でも、ほとんどの書籍で一定時間、どのページでも閲覧できる「試し読み」が可能です。「もっと読みたい」「必要な箇所をダウンロードしたい」と感じたら、すぐにリクエスト！ 大学が速やかに購入を検討します。図書館へ行かなくても、自宅や電車の中でも、授業の合間や友達を待つ間にも、深夜のレポート執筆や勉強にも。本文中のキーワード検索や、音声での読み上げなど、電子特有の便利な機能も魅力的です。貸出や返却の手続きなしでも読める電子書籍を、もっと利用してみませんか？ 「電子書籍試し読みサイト」の「テーマ別おすすめタイトル」では、DDASH関連の電子書籍を紹介しています。これらを参考にデータサイエンスやAIへの理解を深め、ぜひ、DDASHにチャレンジしてください！



大企業の約半数が経営企画や製品企画、マーケティングにデータを活用、約2割がさらに高度なAIや機械学習技術をビジネスに利用、加えて、大企業の約5割がデータ分析専門の部署を置いています。現代社会におけるデータ利活用は急速に広がりました。文系だから、専門外だから関係ないという判断では時代に取り残されてしまいます。データ分析に関する知識技能は、文系・理系の垣根なく現代の「読み・書き・そろばん」。社会人基礎力として必要とされているものです。



数理・データサイエンス・AIについて

3つのレベルで、段階を踏んで

学ぶことができるプログラム

10数年におよぶデータサイエンス教育の実績に立脚
総合大学の強みを活かし、14学部の力を結集

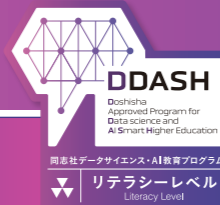
同志社大学
全学共通教養教育センター



2022年度開始

DDASH-L

リテラシーレベル



文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム 認定制度(リテラシーレベル)」に準拠

実社会で目にするデータを適切に読み解き、使い方を判断できる水準の
数理・データサイエンス・AIに関する能力習得を目標としたプログラム。

- DDASH-L 修了要件 必修科目 2 単位、選択科目 4 単位以上、
計 6 単位以上を修得すること。
2015 年度以降生対象

科目
構成

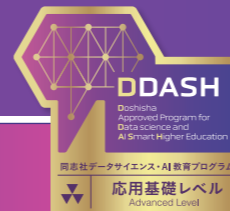
- 必修科目 「データサイエンス概論」
- 選択科目 「数学 1」*「数学 2」*
「データサイエンス 1」*「データサイエンス 2」*
「論理的思考の基礎(1)」 「論理的思考の基礎(2)」
「論理的思考の応用(1)」 「論理的思考の応用(2)」
「Statistics for the Social Sciences and Humanities」

*内容の異なる複数のクラスあり

2023年度開始

DDASH-A

応用基礎レベル



文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム 認定制度(応用基礎レベル)」に準拠

数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)を補完的・発展的に
学びデータから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力や、AIを
活用し課題解決につなげる基礎能力を修得し、自らの専門分野に数理・
データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点獲得を目標とする。

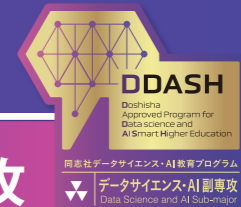
- DDASH-A 修了要件 DDASH-Lの修了要件に加えて、
必修 3 科目を修得すること。
(必要科目数 6 科目 12 単位以上)
2015 年度以降生対象

- 必修科目 「データサイエンス基礎」
「データエンジニアリング基礎」
「AI基礎」

2023年度開始

DDASH 副専攻

専門分野との往還



学部の専門・特性を活かした科目を自分で選択

数理・データサイエンス・AI教育(応用基礎レベル)の学びに加えて、各学
部で開設している50科目以上の学部専門科目を選択科目に準備。学部
の専門性を活かした体系的な履修も可能とし、エキスパートレベルで
ある専門教育への学びに、よりスムーズにつなげることを目標とする。
修了者対象に履修証明書も発行できる。

- DDASH 副専攻修了要件 DDASH-Aの修了要件に加えて、
選択科目から4科目8単位以上。
(必要科目数 10 科目 20 単位以上)
2022年度以降生対象

- 選択科目(A) DDASH-L 選択科目
- 選択科目(B) 「Introduction to Quantitative Data Analysis」
「Mathematics and its History」
- 選択科目(C) 学部専門科目 多数

エキスパート(大学院レベル)



DDASH 概要サイト
「DOSHISHA VISION 2025」特設サイト

